

教えて！米子城

第13回

米子の城下町について その5



同じ中学校に通う同級生、**戸山ミナちゃん**と**平山ジローくん**。米子の歴史や文化（カルチャー）のことにくわしい**かるちゃん**といっしょに米子城の魅力や謎に迫ります。今回は、米子の城下町について学びます。

ミナちゃん：私、夏休みに米子の城下町についてまとめてみたいなと思ってるの。

かるちゃん：それはいいね。学んだことを自分なりに整理してみると復習になるし、新たな疑問もわいてくる。さらに理解が深まっていくことになるよ。

ジローくん：「春の米子城下町がっつりウォーク！」で聞いた話も参考になるよね。

ミナちゃん：創業200年を超える老舗**長田茶店**のある岩倉町界隈が気になったわ。

かるちゃん：長田茶店の店内に入ると高い天井や太い梁など典型的な町屋造りの特徴を見ることができるね。別棟にはお茶を船で運ぶ際に使った茶壺も置いてあるし、米子のお茶文化の情報発信地にもなっているよね。

ジローくん：海陸通商の町として栄えた米子では、城の外堀の一部だった旧加茂川周辺に商家が集まっていたんだよね。岩倉町界隈もそうだったのかな。

かるちゃん：岩倉町の町禄（藩が町人に与えた生産販売特権）である昆布などの海産物や乾物を北前船などで各地から運んできて、中海で船に移し替えて蔵まで運び、販売していたんだ。明治4年の「**米子惣町船御改帳**」を見ると、岩倉町には二石積（約300キログラムに相当）の船15艘が所属し、中海と旧加茂川の間を行き交っていたことがわかるよ。

ミナちゃん：**中ノ棚橋**から**中ノ棚曲り**にかけてのところでは魚市も開かれていたって聞いたわ。あのあたり一帯が賑わっていたのね。

ジローくん：中ノ棚橋の一つ上流の天神橋のたもとは**天満宮**などもあったんだね。

かるちゃん：そう。橋から見て右側に**北野天神**、左側に**稲荷大明神**があったんだ。それが天神町や天神橋の名前の由来なんだけど、当時このあたりは、右岸は物流のための船着場や土蔵ばかりで左岸側にしか町屋がなかったことから**片原町**とも呼ばれていた。天神橋も、もう少し下流側にあったんだけど、昭和4年に架け替えられて今の場所になったんだよ。現在、元の場所には**天神橋地蔵**だけが残されているね。

ミナちゃん：ああ、それであの場所にお地蔵様があるんだ。そういえば旧加茂川沿いの橋のたもとはお地蔵様がたくさん祀られているわね。

かるちゃん：いいところに気がついたね。旧加茂川では江戸時代の中頃、彦祖という宮大工の棟梁が地蔵を祀ったのが始まりとされていて、それから後に増えていったんだ。このことは、大山を起点とした地蔵信仰が江戸時代には、大山山麓の裾野の町である米子地域にまで広まっていたことを物語っているんだよ。

ジローくん：それって、もしかして今話題になっている「**大山山麓地域の日本遺産ストーリー**」なのでは？

かるちゃん：おっ、ジローくんすどいね。**8月23日(火)**には地蔵様のお祭り「**加茂川まつり**」もあるので、次回もう少し旧加茂川のお地蔵様のことを調べてみようか。それと、**7月30日(土)**の「**米子城 魅せる！プロジェクト 2016(米子城跡石垣清掃)**」にも参加してみないかい？梅雨明けの石垣をきれいに変身させるイベントだよ。

ミナちゃん・ジローくん：さんせーい。米子城跡の石垣清掃も加茂川まつりもお地蔵様調べも、全部楽しみ～！

意外なところで大山との接点がある。日本遺産や米子城跡石垣清掃も要チェックです。次回もおたのしみに！

(米子市教育委員会 文化課)



長田茶店



天神橋



天神橋地蔵